

治療・検査の費用助成

不育症検査費用の助成 千葉県

令和4年12月1日以降に実施した先進医療として告示されている不育症検査の費用助成制度です。詳細については、ホームページをご覧ください。



不育症治療費等の助成 南房総市

医師から不育症と診断され、医療機関で受けた治療や検査の費用の一部を助成します。

がん・生殖医療治療費の助成 館山市

将来、子どもを持つことを望む小児、思春期、若年がん患者が、がん治療を行う場合、がん・生殖医療に要する治療費の一部を助成します。

※詳細については、各市にお問い合わせください。

特定不妊治療費の助成 千葉県

令和4年4月1日から特定不妊治療が保険適用となったことに伴い、千葉県特定不妊治療費助成事業は終了となりました。過去に受けた助成に関しては、安房保健所または鴨川地域保健センターへお問合せください。

不妊相談

不妊症、不育症、がん・生殖医療に関する医学的な相談やこころの悩みについては、県が実施する「千葉県不妊・不育専門相談センター」へご相談ください。また、市町村も、必要に応じて適切に医療につなげられるよう医療機関と連携を図っています。いつでも気軽に相談することのできる「身近な地域の保健室」として、お気軽にご相談ください。

千葉県不妊・不育専門相談センター

オンラインツール（Zoom）を利用して、電話相談または面接相談（無料）を実施します。詳細については、ホームページをご覧ください。



安房地域の相談窓口

【千葉県】

安房保健所（安房健康福祉センター）	館山市北条 1093-1	☎0470-22-4511
鴨川地域保健センター	鴨川市横渚 1457-1	☎04-7092-4511

【市町村】

館山市健康課	館山市北条 740-1（館山市保健センター）	☎0470-23-3113
鴨川市健康推進課	鴨川市八色 887-1（鴨川市ふれあいセンター）	☎04-7093-7111
南房総市健康推進課	南房総市谷向 116-2（三芳保健福祉センター）	☎0470-36-1154
鋸南町保健福祉課	安房郡鋸南町保田 560（鋸南町保健福祉総合センター）	☎0470-50-1172

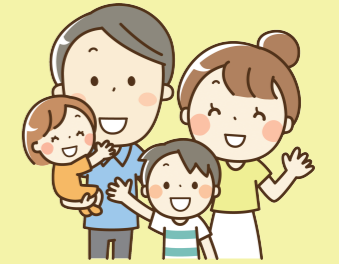
【医療機関※】

安房地域医療センター	館山市山本 1155	☎0470-25-5111
亀田総合病院	鴨川市東町 929	☎04-7092-2211
亀田ファミリークリニック館山	館山市正木 4304-9	☎0470-20-5511
清川医院	館山市北条 1548	☎0470-23-7731
ファミリー産院たてやま	館山市北条 2186-1	☎0470-24-1135

※医療機関での相談は、診療費用がかかります。

監修 亀田総合病院 生産医療科 部長 川井清考
発行元：安房医師会・館山市・鴨川市・南房総市・鋸南町
平成31年3月作成 / 令和6年2月改編

自分の望む人生を送ることができるよう 妊娠や出産に関する 知識を持ちましょう



ライフプランを考えたことはありますか？

あなたは将来どのような人生を送りたいか、考えたことはありますか？

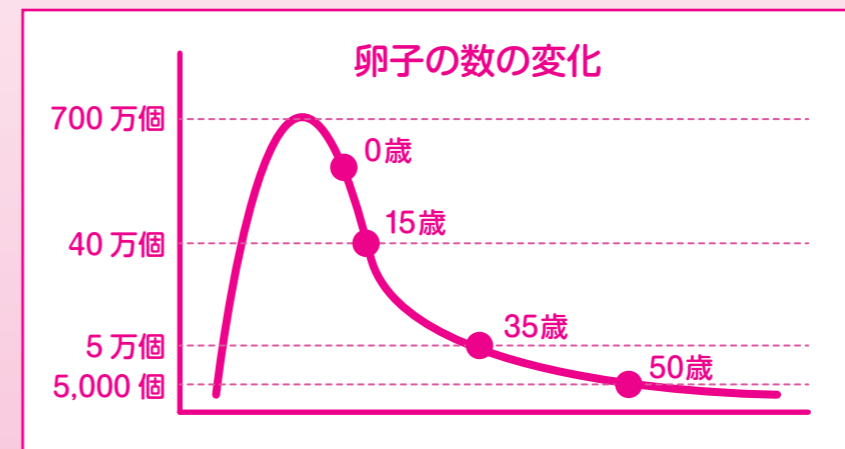
将来の仕事に加え、結婚や、妊娠・出産をどうするかについては、その時期も含め、あなたの自由な意志に基づいて決めることです。希望を実現するために、どんな選択肢があるのか、年齢により体がどう変化するのかなど、正しい知識や情報を得て、ライフプランを考えることが大切です。

妊娠と年齢の関係を知らない人が多い？

● 医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなるといわれています

妊娠率の低下が起こる原因は、年齢に伴う卵子の数の減少と質の低下とされています。

卵子は胎児のうち的一生分がつくられ、加齢とともに数が減少し卵子の質も低下します。卵子の問題以外にも婦人科疾患の増加（子宮筋腫、子宮内膜症など）も認め、一般的に30代後半以降となると妊娠しにくくなるといわれています。また、最近では精子を作る機能も加齢と共に低下することなど男性側の原因の増加も指摘されています。



● 年齢と妊娠・出産のリスクには関連があることが指摘されています

女性の妊娠時の年齢が高くなると、妊娠初期の流産が増えることに加え、妊娠高血圧症候群や、妊娠糖尿病、出産時の出血量が増加するなどの妊娠に伴う異常が生じる率が高くなり、母体、赤ちゃんへのリスクも高くなります。

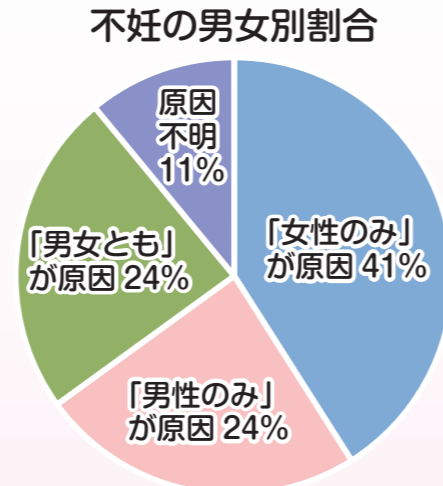
不妊症、不育症、がん生殖医療について

● 不妊症

妊娠を希望しながらも、妊娠可能な年齢の男女が、避妊をしないで夫婦生活を営んでいるにもかかわらず、妊娠しない期間が1年以上の場合を不妊症といいます。健常な夫婦であれば3か月で約50%、1年以内で90%近くが妊娠するとされています。

不妊症の原因は、女性側の原因が41%、男性側の原因が24%、男女両方の原因が24%、原因不明が11%とされています(図)。

近年の生活環境の変化、ライフスタイルの多様化、晩婚化などにより不妊に悩む夫婦が増えています。



出典：WHO(世界保健機関)

● 不育症

妊娠はしながらも、流産や死産を繰り返す場合を不育症といいます。流産は約15%に起こり加齢とともに増加します。妊娠したことのある女性の38%は流産を経験しているという報告があり、不育症の割合も5%程度と報告されています。

不育症の原因は、凝固系の異常、子宮奇形、夫婦染色体異常などありますが、ほとんどが原因不明です。

● がん・生殖医療

がんに対する診断や治療の進歩により、がんを克服した患者が増えています。しかしながら一部の化学療法や放射線療法は生殖機能に影響を与えるため生殖年齢の若年男女が治療により不妊になることがあります。治療を始める前に卵子や精子、受精卵を保存しておくことで将来の妊娠の可能性を残す治療を「がん・生殖医療」と言います。

妊娠や出産に関する疑問や悩みについては、裏面の〈安房地区の相談窓口〉までお気軽にご相談ください。



不妊治療について

- 女性も男性も、不妊症の原因が様々あります。治療可能な原因が分かった場合は、薬による治療や外科手術を行います。はっきりした原因が特定されないことも少なくありません。
- 具体的な治療法には、排卵時期を超音波や排卵検査薬などで確認し性交渉のタイミングを合わせるタイミング法、精子数が少ない場合やタイミング法で妊娠しない夫婦に排卵時期に精液を調整し注入器で直接子宮内腔に注入する人工授精、タイミング法や人工授精で妊娠しない場合に卵子と精子を取り出して体外で受精させてから子宮内に戻す「体外受精」や「顕微授精」などの生殖補助医療などがあります。
- 不妊治療は、出産に至るか、あるいは、治療をやめる決断をするまで続きます。年齢が若いうちに治療を開始したほうが、1回あたりの妊娠・出産に至る確率は高い傾向がありますが、「いつ終わるのか」を明らかにすることは困難です。治療を始めてすぐに妊娠する場合もあれば、何年も治療を続けている場合もあります。

※若年でも月経不順の方や卵巣を手術した方、子どもを産みたいと思った時の年齢が30代後半以降の場合などは、一度、早めに婦人科での相談をお勧めします。

